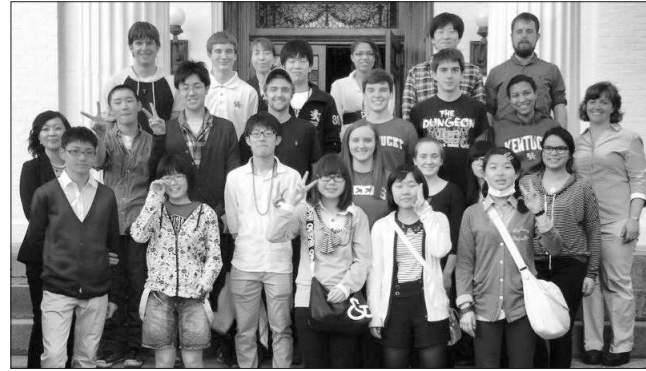




静内ハウス団地開所式 4/2

町が静内目名に整備している『静内ハウス団地』の供用が始まり、開所式が開かれました。静内ハウス団地は、農業者の担い手確保や育成を図るための研修施設で、平成27年度までに約2万7千平方メートルの敷地にミニトマトを中心とした施設園芸作物の栽培ハウス30棟などを整備します。ハウス団地第1期生となる研修生は、1年間町内の農家で研修をしてきた佐々木知彦さん、さとみさん夫婦と、竹田均さんの3名。町内でミニトマト農家として新規就農を目指します。



日高管内教育実践表彰 3/19

日高教育局による『平成25年度日高管内教育実践表彰授与式』が町公民館で開かれ、受賞した本山タイさん（三石港町）と、サッカー少年団Area Area FCに北村善春局長から表彰状が贈られました。本山さんは油絵制作を通じた児童生徒の健全育成で教育実践表彰を受賞。Area Area FCはフットサルの全道大会で優勝し、全国大会に出場した功績で特別賞を受賞しました。

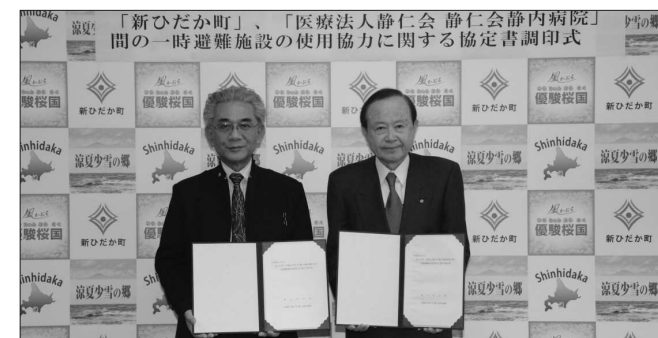


消防功労者消防庁長官表彰(表彰旗)受章報告 4/9

日高中部消防組合三石消防団(片山英夫団長)は、『平成25年度消防功労者消防庁長官表彰』で、防火活動での功績をたたえる表彰旗を受章し、酒井町長に受章の報告をしました。同消防団は明治39年に消防組として発足して以来、100年以上の長きにわたり地域の消防活動で尽力され、酒井町長は「長年のご尽力に敬意を表します」と話し、片山団長は「先人の苦勞が報われた。今後も地域の安全を守りたい」と話しました。

レキシントン市友好親善訪問団派遣 3/25~4/3

姉妹都市の米国レキシントン市を、友好親善訪問団(中村亮士団長ほか12名)が訪れ、施設見学や市長への表敬訪問、ホームステイなどを通して異国文化を学び、同市の方々と交流を深めました。帰国した団員は「文化の違いを肌で感じ貴重な体験ができた」「本場の英語に触れて勉強になった」「日本ではできない体験が多くあった。機会があればまた行きたい」と話していました。



一時避難施設の使用協力に関する協定 3/25

町と静仁会静内病院(井齋偉矢院長)は、津波や洪水などの災害時に住民が一時的な避難場所として病院を利用できる協定を結びました。井齋院長は「日ごろから防災意識を高めるよう、院内で訓練を重ねている。万が一の時には町民に安心して来てもらいたい」と話し、酒井町長は「医療機関との協定は初めて。快く受けいただき感謝します」と謝辞を述べました。

ニュースフラッシュ

まちのできごと、話題をお届けします。



一時避難施設の使用協力に関する協定 2/13

町と静内エクリップスホテル(前田忍社長)は、津波や洪水などの災害時に住民が一時的な避難場所としてホテルを利用できる協定を結びました。住民が町指定の避難場所に向かう時間的な余裕がない場合に緊急避難できます。前田社長は「9階には200人ほど収容できる。今後もさまざまな形で地域貢献していきたい」と話しました。町とホテルの一時避難場所の使用協力協定は、静内エクリップスホテルで4か所目となります。



温水プールオープン 4/15

町静内温水プール(静内古川町)の今季の営業が始まり、スポーツ少年団の子どもたちや町民らが、久しぶりの水の感触を楽しみました。



春の町民安全大会 4/10

『交通事故死ゼロを目指す日』春の町民安全大会が町福祉センターで開かれ、交通安全団体や小学生など町民約260人が参加し、交通事故の撲滅を誓いました。



就農相談会 4/6

町農業担い手育成支援協議会(有田英二会長)は、ミニトマト栽培の農業研修生を募る「就農相談会」を町公民館で開き、町内外から8組12人が参加しました。



小型家電無料回収開始 4/1

町は、役場静内、三石両庁舎ロビーに、無料の回収ボックスを設置し、不要になったパソコンや携帯電話、デジカメなどの小型家電の回収を始めました。